

12 家具の配置と固定の工夫

家の中の家具・テレビ・照明器具などの配置や固定を工夫することにより、地震時の家具の転倒・落下やそれともなう人命危険を減らせることを学びましょう。



家具などの配置と固定次第で、家の中の危険性が変わります。学びます。



時間軸

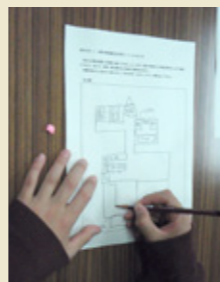
実施内容

対象人数★5～40人

1 導入 (5分) ⇒映像25

説明文【例】

- 「自分の家の間取り図に家具を書き込むことにより、地震が起きたときどのくらい危ないか想像しましょう。」
- 図面の記入に入る前に、映像25（家の中の揺れの様子）を見せます。



部屋の間取り、家具の配置を記入

2 家具配置の書き込みと意見交換 (25分) ⇒資料12-1・12-2

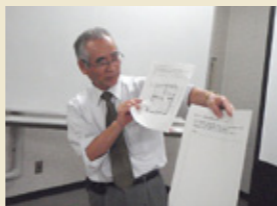
- まず、資料12-1の家具の配置書き込みシートを配ります。
- 次いで、資料12-2の家具の配置書き込み例を配ります。
- 各自、資料12-2を見ながら、資料12-1に自分の家の大まかな間取りを書き込みます。特に居間、寝室、台所の様子を思い浮かべ、それぞれの部屋の家具が置かれた様子を書き込みます。
- 見取り図の家で地震にあった場合、どのような危険があるか気がついたことを、各自にふせん（メモ）に書き出させます。
- 身を守るためにどのように家具の配置を変え、どのように家具の固定をすればよいか等について、意見を発表させます。



意見交換しながら、部屋に危険性がないかチェック

3 まとめ (10分) ⇒資料12-3

- 指導者は、各自の書き込みや意見発表の様子をふまえて、家の中で地震があったときに身を守るため、どのように家具を配置したり、固定しておくべきかを、資料12-3を活用して説明します。
- さらにもう一度、家の中の地震の映像を見せ、事前対策の大切さを説明します。



具体的な対策を考えてみよう

● 指導ポイント

必要に応じ、建築の専門家の参加をえて診断してもらうことも可能ですが、ここでは、簡易な方法で自分たちの家の間取りの弱点を把握し、配置を工夫する方法を指導します。

● 自主防災組織の関わり方

まとめのとき、家具の配置や固定の工夫についてどんな取り組みをしているか語っていただき、参加者のイメージを膨らませる役をお願いします。

● 準備するもの(目安)

準備品	数	備考
<input type="checkbox"/> 映像「家の中の揺れの様子」	1	映像25
<input type="checkbox"/> 資料「家具の配置書き込み用シート」	参加者数	資料12-1 (配付用)
<input type="checkbox"/> 資料「家具の配置書き込み用シート(記載例)」	参加者数	資料12-2 (配付用)
<input type="checkbox"/> 資料「家具の配置・固定の工夫」	1	資料12-3 (指導者用)
<input type="checkbox"/> ふせん(メモ)	参加者数	
<input type="checkbox"/> 模造紙、油性ペン	グループ数	
<input type="checkbox"/> パソコン	1	必要に応じて準備
<input type="checkbox"/> プロジェクター	1	必要に応じて準備
<input type="checkbox"/> スクリーン	1	必要に応じて準備
<input type="checkbox"/> スピーカー	1	必要に応じて準備

● 家庭への持ち帰り

ここで学んだことを保護者の方に話してもらい、また、自宅では家具の固定がされているか、保護者の方と確認してみてください。また、家具の転倒・落下等からどのようにして身を守るとよいか、家族で話し合うよう指導してください。

資料12-3「家具の配置・固定の方法」は指導者用の資料ですが、配付して持ち帰っていただいてもかまいません。

● このメニューに関する+αの知識

家具の配置の見直しに加え、家具の固定による転倒・落下を防止する様々な方法を学びましょう。

● ひと工夫

- より具体的なイメージを持たせるために、起震車を体験させたい場合は、消防署や最寄りの防災学習センター等にご相談ください。
- この教材は、メニュー21「家にいるときに地震があったら?—イメージトレーニング①」と一緒に用いると、より大きい効果が得られます。

● 注意事項

小学校低学年は、まず自分の身を守ることが大事であること、これに加えて高学年には、小さい子らの身を守ること、中学生以上には、家族・地域住民の一員としての行動に努めることを学ばせます。

家の間取り図については、プライバシーに関わるため、お互いに交換させることはしません。